



自治的な活動で、自ら課題を解決する力を育てる

校長 山田 里恵子

令和5年度、それまでコロナ禍で制限のあった「内野っ子祭り」を3年ぶりに全校一斉で行いました。全校の子どもたちが一つになり、目標に向かって取り組むことが、一人一人の成長につながることを実感しました。今年度は、子どもたちの頑張りや成長の姿を見ていただくために、学習支援ボランティアとセーフティスタッフの皆様をお招きして実施しました。内野っ子祭りのねらいは、以下の3点です。

- ① みんなで一つのことを創り上げながら、学級の団結力や企画・運営力を高める(自治的能力の育成)
- ② 他学年とお店のよさを伝え合ったり交流したりし、ふれ合いを深める(人間関係をつくる力の育成)
- ③ 自分のよさを発揮し、成就感、達成感を味わい、自分に自信をもつ(自己肯定感の向上)

①の「自治的能力」とは、「自分たちで決めて、実行して、次に繋げる力」です。子どもが自ら課題を見出し、その解決方法や取扱い方法について合意形成を図り、協力して目標を達成していくといった「自治的な活動」によって育成されます。子どもたちの自治的な活動で、集団の質を高め、子どもたちが主体的によりよい人間関係を築くことが大切です。学校での活動には、当然制限があるため、子どもには任せることができない内容があります。そのため、教師の適切な支援や指導も必要です。



自治的な活動の一つ、児童会行事「内野っ子祭り」では、「お店を回って他学年との仲を深める」「お店づくりを通して学級の団結力を高める」というめあてに向かい、代表委員会や学級、委員会で話し合いながら、よりよいお店や発表にしようと頑張る姿が見られました。給食の時間にお店紹介の動画が披露されたり、宣伝ポスターが玄関前廊下に掲示されたりし、全校の気持ちが高まり、一つになっていく様子が伝わってきました。



当日のオープニングでは、1年生がかっこいいダンスを披露し、2年生がステージの飾り付けで盛り上げました。総務委員会は、全体計画、運営、当日の進行、チャレンジ委員会は、約束を劇で表しました。各委員会は、ラッキーくじを企画しました。



どのお店も大盛況で、やり方をわかりやすく説明したり、明るく接客したり気持ちのいい挨拶をしたりと進んでかかわる姿がたくさん見られました。全校が一つとなって創り上げ、大変盛り上がりました。来てくださった学習支援ボランティアやセーフティスタッフの皆様から、「子どもたちが生活の中にある物を工夫していて驚いた」「接客態度が素晴らしかった」「優しい声掛けや挨拶がとてもよかった」「大きい子が小さい子をよく見ていて感心した」「みんなで協力していて凄かった」などの感想が多く寄せられました。

大切なのは、内野っ子祭りで身に付けた力を子どもたち自身が実感し、次に繋げることです。この祭りを通して、「学級・学年がよりよくなった」「自分はここが成長した」と具体的に振り返り、身に付けた力をこれからの学校生活で生かしていけるよう学校全体で取り組んでいきたいと考えています。

今後も重点目標「かかわる力・やり切る力(協働・自律)の育成」に向け教育活動を進めていきます。

桜の植樹をしました(6年生)

11月11日(月)、愛桜会とPTAの皆様のご協力で桜の植樹を行いました。植樹の仕方を教えていただいた後、斜面に掘られた大きな穴に、肥料と土を混ぜて入れ、苗を植え、土手を作って水をやりました。6年生は今、「内野の未来すてきプロジェクト」で、内野のまちづくりについて考え、各学級で考えたアイデアを実践しています。植樹した桜の成長とともに、子どもが地域とかかわりながら、「内野をもっと素敵に」という思いを高める姿を期待しています。



アルビレックス新潟と連携した食育推進事業(5・6年生)

11月27日(水)、「アルビ de 食育・健康づくり選手講演会」でアルビレックス新潟の松田詠太郎選手が来校しました。代表の子どもが松田選手とパス回しをした後で、松田選手からアスリートとして食事や睡眠の面で心掛けていることを教えていただきました。目標達成のためには、「何が大切かを考えてゲーム(遊び)や食をセーブすること」「日頃から当たり前のことをしっかりやること」「あきらめずに努力を続けること」が重要であることを教えていただきました。



伊藤五郎左衛門の劇を披露します(4年生)

4年生は、総合的な学習の時間で新川について学習しています。新川の劇「掘った、通した!新川の開削物語」の作者である古侯慎吾さんから脚本をお借りし、劇に取り組むことにしました。地域の方々に新川について知ってもらいたいという願いをもち、1月24日(金)の学習参観で劇を披露することになりました。12月4日(水)に「いちまん」様のお店の駐車場を一部お借りして、劇の宣伝活動を行いました。お店に訪れた保護者や地域の皆様に、歌やリコーダーを披露し、ご案内のチラシを配布しました。



わくわくおもちゃランド(2年生)

12月5日(木)、2年生は、生活科「うごくうごく わたしのおもちゃ」の学習の一環で、内野保育園の園児を招いて「おもちゃランド」を開きました。これまで、オープニングの内容、遊ぶ際のやり方、ルール、約束事を決めたり、おもちゃを工夫したりと、楽しいおもちゃランドにしたいという願いをもち、準備を進めました。どうしたら園児に分かりやすく伝えることができるか、説明の仕方や話し方を考えました。当日は、園児の目線に合わせて一生懸命説明したり、優しく誘導したりすることができました。保育園の先生方から「とてもよい活動でした。園児も小学校が楽しみになりました」というお声をいただきました。中学年に向け、ぐんと成長につながったおもちゃランドとなりました。



内野 Mottainai プロジェクト(5年生)

5年生は、総合的な学習の時間で「食品ロス」について学んでいます。12月10日(火)、地域でお店の経営をしている高井悦成さんからお話を聞きました。商品の売れ行きを見て仕入れをしていること、売れ残りそうなものは早めに値引きをしていること、在庫を見ながら飲食店で活用していることなど、食品ロスを出さないよう工夫していることを学びました。17日(火)、当校の早木栄養教諭から給食の食品ロスについてお話を聞きました。調理の際の野菜くずや給食の食べ残しも食品ロスになること、食品ロスを防ぐため、残さず食べてくれるような献立や調理法を工夫したり、残食を肥料としてリサイクルしたりしていることを学びました。子どもたちは、「食品ロスをなくすよう全校に呼び掛けたい」「喜んで食べてくれる給食のメニューを考えたい」などの思いをもちました。今後、食品ロス防止に向け、自分たちにできることを考え、実行したり発信したりする予定です。

